

平成29年度岐阜県外国人県民会議 概要

日 時：平成29年7月30日（日）13：30～15：30

場 所：OKB ふれあい会館 406会議室

出席者：外国人県民会議委員13名、県清流の国づくり政策課 4名、
（公財）岐阜県国際交流センター1名

<主な意見の概要>

○教育について

- ・ 自分がやっている学習支援教室に、他の市町村の子どももくることがある。外国人が少ない地域にも、初期指導教室を行う自治体（市町村）や、学校外で日本語を教える民間の団体が増えると良い。
- ・ 外国人の子どもへの指導方法や接し方をよく理解していない先生もいる。大学の授業などで、指導方法や接し方を教える必要があるのではないか。
- ・ 外国人の高校生は、進学に際してお金の問題となるケースも多い。奨学金などの情報提供をして欲しい。

○就労等について

- ・ 外国人の高校生は、日本人に比べて、進路（進学・就職）に関する知識が少ないので、将来色々な選択肢あることを情報提供して欲しい。
- ・ 技能実習生について、労働関係法令が遵守されていないケースをよく聞く。日本の最低賃金や有給休暇の制度についても知らない技能実習生も多いので、情報提供が必要ではないか。

○医療関係について

- ・ 自分は医療通訳ボランティアをやっているが、実際に斡旋があっても仕事で行けないこともある。どうしても仕事を優先してしまうので、ボランティアではなく、仕事にしてもらえたら、もっと地域の役に立てると思う。

- ・ 医療通訳がない場合、受診できないケースもある。出来れば、病院に多くの通訳が欲しい。
- ・ 遠隔でも通訳できるような体制はどうか。

○外国人への情報提供や相談体制

- ・ ホームページだけでなく、SNS や、アプリ、動画を活用すれば、外国人に情報がより伝わるのではないか。また、教会、外国人が利用する店、大使館、海外送金アプリを運営する会社などと連携して情報発信することも有効ではないか。
- ・ 外国人の子どもへは、学校や地域の学習支援教室などを通じた情報発信も有効。
- ・ 役所に初めに来た入口の時点で、日本の生活者としてのルールなどをしっかり伝えることが必要。
- ・ 情報はたくさんあるが、情報を受ける人の興味が薄いことが問題。色んな国のイベントが開催されているので、県も参加して情報発信してはどうか。
- ・ ベトナム人が増えているので、ベトナム語での情報提供を進める必要があるのではないか。
- ・ 今後、外国人も高齢化してくるので、健康保険や年金の制度に関する情報提供をしっかりとっていくことが必要。
- ・ 外国人の子ども、とりわけ思春期の子どもに対しては、言語の支援だけでなく、心理的なフォローも必要ではないか。
- ・ 留学生で、日本語がわからずホームシックになる人もいる。今ある相談窓口の言語以外にも対応できる体制が必要ではないか。

○多文化共生の地域づくり

- ・ 永住者が増えており、地域で活用したいという意識のある人はいるので、そうした人が活躍できる環境づくりが必要ではないか。
- ・ 外国人と日本人が触れ合うようなイベントを開催すると良いのではないか。
- ・ 日本の伝統的なお祭り等は既にあるので、人と触れ合うイベントに参加するかは結局、本人の意識の問題。今あるイベントに外国人が参加するためにはどうした

ら良いか、この会議で話し合ってはどうか。

○その他

- ・ 自分は子どもの頃、言語面などの支援体制が十分でない中、色んな苦勞を自分で乗り越え、日本語や日本人との接し方を学んできた。支援しすぎると甘えてしまう外国人もいると思う。
- ・ 外国人への支援は重要だが、自助努力を促すことも重要。
- ・ 何十年も日本で暮らしていても、あまり日本語が話せない外国人も多い。年齢関係なく、日本語を教えてくれる教室があると良い。